

令和3年度  
第4回 球磨川水系学識者懇談会  
説明資料

第3回学識者懇談会での主な意見

令和4年3月28日

国土交通省 九州地方整備局  
八代河川国道事務所  
熊本県土木部河川港湾局  
河川課

- 第3回学識者懇談会でいただいたご意見について、以下のとおり。  
 ○いただいた意見を参考に、球磨川水系河川整備計画(原案)の案を作成しました。

No	意見の概要
1	施設能力を上回るような大きな災害の時には、市町村だけでなく住民により綿密に情報提供できる仕組みを検討いただきたい。
2	(第3回資料3P21)河川における自然の浄化作用の保全について、生物的な作用も記載すべき。
3	流域一体的な水質保全の観点から、汚水処理人口の普及率の向上という観点を記載すべき。
4	球磨川下流部は、汽水域が特徴的であることから、「汽水域に見られる特有の生態系の保全」という観点を記載すべき。
5	(第3回資料2P60)河川は、農業、林業、水産業という、第一次産業と密接に関係しているため、「農業、林業、水産業の従事者を含めた関係者との連携」といった観点を記載すべき。
6	(第3回資料2P56)「巻き込む」はネガティブな印象であることから「連携」という表現にするべき。
7	(第3回資料3P44)球磨川流域大学構想について、具体的な仕組みを検討する必要がある。
8	人工化された護岸の整備によって水際付近の流速が速くなり、出水時に魚類が避難できる場所がなくなることから、水際処理を丁寧に行い流速を落とす必要がある。
9	(第3回資料2P20)市町村にまちづくり等の計画がない場合でも、より積極的な働きかけを意識してほしい。良好な景観や賑わいづくりについても、今後充実させる中で明確化してほしい。
10	(第3回資料2P3)気候変動の進行の具合で、整備計画の見直しが考えられるので、「気候変動の進展」という観点を記載すべき。
11	(第3回資料2P7)「流水の清潔の保持」について分かりやすい表現に工夫してほしい。
12	天然ダム形成の検知について、危機管理型水位計を活用するなど検討いただきたい。
13	(第3回資料3)国と同様に、県でもSDGsの観点を記載すべき。

- 第3回学識者懇談会でいただいたご意見について、以下のとおり。  
 ○いただいた意見を参考に、球磨川水系河川整備計画(原案)の案を作成しました。

No	意見の概要
14	大量の河道掘削の実施にあたっては、下流域への土砂供給の減少等による環境への影響について検討していただきたい。
15	遊水地の下流は水位低下が見込まれ恩恵を受けるが、遊水地周辺も不衡平とならないよう治水安全度の確保やソフト対策を検討してほしい。
16	遊水地候補地の情報共有を行い、その周辺に自助として田んぼダムを推進していくことも合意形成の上で重要である。
17	評価検討を行う際には、費用だけではなく便益の観点、人口減少のファクターも重要である。
18	宅地かさ上げについて、自治体への説明資料となることも踏まえ、資料の解像度を上げることを検討してほしい。
19	(第3回資料5P12)生態系への影響を評価できないので、対策予定箇所で河道掘削、拡幅などどのような対策を実施するか記載してほしい。
20	(第3回資料5P6)宅地かさ上げでは、土砂災害との関係への配慮も記載すべき。
21	生活、環境、景観への一番の配慮は、河川整備で改変する量を減らすことであり、今後の流域治水等と連動して柔軟な見直しも検討してほしい。
22	流水型ダムの環境配慮の具体的な内容について情報提供をしてほしい。また、流水型ダムに溜まった流木を除去しやすい工夫を検討すべき。
23	流水型ダムの洪水調節ルール(なべ底カット)は、流量だけでなく、土砂堆積など総合的な観点を踏まえて決定する必要がある。